

# わが

## 語り合おう氷見くフューチャー センター市役所で未来に挑む

### はじめに

氷見市は、海越しに3000m級の立山連峰を望むことができ、その万年雪（氷）を見ることが地名の由来の一つに挙げられる自然美豊かなまちです。フランスのモンサンミッシェル湾など世界36湾が加盟する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟がこの秋決定した富山湾は「天然の生け簀」と名高く、環境にやさしい越中式定置網で水揚げされる「ひみ寒ぶり」や「幻の夏マダコ」など、キトキト（新鮮）で豊富な魚介類が（氷見ブランド）を形成してきました。最近では、氷見牛や氷見米、氷見カレーにハトムギ茶、地酒、ワインなど、里山産品が新たなブランド革新を起こし、産業に活力を与えています。

この春、氷見市役所にも大きな

創造的イノベーションが起きました。築45年を経過し、耐震不足が指摘されていた旧市庁舎から、高校再編により使用されなくなった「旧有磯高校」の体育館を新市庁舎として整備し、活用するという全国でも類を見ないチャレンジに挑み、市民の力で成功に導いたのでした。プロファシリテーター（会議の進行役）から執行機関に転身した市長の公約「つばやきをかたち」を具現化するため、新市庁舎の整備に当たっては、職員参加、市民参加のワークショップを重ねて開催し、使い手としての不安や期待、利用者目線のきめ細やかな指摘・提案を受け、設計に反映いたしました。ワークショップの前後には（世田谷トラストまちづくり）の浅海義治課長をはじめとする3人のメンタールより、市民参加プロセスのデザイ

ンやプログラムのデザイン、参加構成のデザインを学び、庁内ファシリテーターの実践養成の機会ともいたしました。おかげさまで、最終回のグループワーク進行や、この夏行われた全国自治体学会分科会の進行に登壇できる職員も着々と育ち、対話による価値創造の文化が根付きつつあります。全国で初めて本格的な「フューチャーセッションルーム」を備え、ファシリテーションの担当課やマーケティングの担当課も新設。開かれた庁舎に多様な地域人材が集い、地域課題の自律的解決を打ち合わせる光景が日常的に見られるようになってきました。（センター）では経営会議の見える化を、（プレゼンテーション）では発想を広げる自主勉強会を、（ワークショップ）ではホワイトボードが天板のテーブルで

打ち合わせを、（キャンプ）では変幻自在の台形テーブルを組み合わせて気分転換を、と利用者が庁舎を使いこなす理想の姿がそこにあります。さらに、毎日14時からの「庁内ガイドツアー」や月300人を超える視察受け入れの機会を通じて参加者から「富山の置き薬」を研修道具箱にするなどのアイデアもいただき、日々、創意と工夫が職場を彩る（成長する市庁舎）となっております。

### まちづくりの課題

本市では、ここ数年の間に「市民病院」と「市庁舎」「道の駅」が移転し、「市民会館」も現在、耐震不足の議論の中にあります。空地空間の利用に当たっては、まちの未来から全体像を俯瞰し、今こそ地域100年の大計に立った長期展望を描く時期だと認識しています。

「まちづくりはハードからソフト、ソフトからハードへ」を合言葉に、市民が味わいたい感情から議

論を説き起こし、「都市戦略」や「まちのランドデザイン」に英知と資源を集め、もってハードの再配置や形が見えてくると訴え、従来アプローチの転換を図っています。

現在、まちづくりの専門家の協力を得ながら、市の地形特性をはじめとするランドスケープデザインについて入念な調査を行うとともに、それぞれのまちづくりプロジェクトの進捗を確認し合い、シナジーを生み出していく部課長会議（まちづくりプロジェクト横断会議）を月1回定期開催するなどマネジメントの仕組みそのものの改善にも着手しています。

既に動いている旧道の駅「海鮮館」の利活用については、市庁舎に続くリノベーション施設第2弾として、単なる観光体験施設ではなく（漁業を核としたまち



新市庁舎

づくりが起きる）人間変革の場所と位置付け、氷見ならではの漁村文化の価値や魅力を楽しみ、魚食の普及や、風景の保存、記憶のアーカイブや地域の絆を紡ぐアート活動の拠点として平成27年4月の開

館に向けた整備を進めております。

また市民会館については、耐震診断の結果をいち早く市民に公表し、利用者ワークショップを行いながら、利用の可否判断、補強または建設についての議論を深めています。この機会に文化政策そのものの在り方を検討したり、文化施設の人財育成に向き合ったり、やはり（ソフトやハードの）市民的議論をと投げ掛けています。

### おわりに

来春には、北陸新幹線が金沢まで開業し、能越自動車道も能登半島へ延伸していきます。交通体系のドラスティックな変化が交流人口や定住・移住に与えるインパクトを客観的に把握して、次なる都市戦略に反映させていく経営努力を払うべく、本年より、民間管理職を募集し、「観光マーケティングおもてなしブランド」課を立ち上げました。また行政職員、観光協会、地域NPOの皆さまにマーケティング思考を携えていただくことと全国6カ所で開催された博報堂「地域みらい大学」にエントリーし、基礎データの読み解きやペルソナを設定した観光企画の立案など、地域

シンクタンクとしてのノウハウの取得にも力を注いでいます。またコンセプトとターゲット、プロセス（関係づくり）とツール（手法）を整合させていく顧客マーケティングを学ぶ「企画塾」、動画プレゼンテーションで社会的事業の価値を伝えていく「ドリームプランプレゼンテーション」などの未来スキルを内製化し、結果が出る事業立案、公金を大切に使う組織づくりを進めています。さらに、全職員への「コー

### プロフィール

- ◆ 面積 230・50 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万931人
- ◆ 世帯数 1万7717世帯

〔将来都市像〕人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ

〔まちの特徴〕海から里山まで広がる豊かな自然と食に恵まれ、歴史や文化が数多く残るまち

〔特産品〕氷見ぶり、氷見いわし、



氷見市長  
本川祐治郎



氷見牛、氷見うどん、ハトムギ茶、かまぼこ、稲積梅、竹細工、藤箕  
〔観光〕海浜植物園、朝日山公園、藤子(A)まんがロード、潮風ギャラリ、ひみ番屋街、氷見市庁舎  
〔イベント〕まるまげ祭り、ごんごん祭り、唐島弁天祭、祇園祭、ひみまつり、ひみ永久グルメ博

チング研修」、地域担当職員への「ファシリテーション研修」の充実などが共につくる未来へ」をキーワードとして、まちの使い手の専門家である市民のつばやきに耳を傾け、かたち（政策）にしています。成熟した民主主義が導く志民の力で、これからの氷見を伸ばしていきたいと考えております。ぜひまた氷見市へお立ち寄りくださいませ。お待ち申し上げます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 先人の努力を引き継ぎ 明るい未来を創出するまち、あんなか

### はじめに

安中市は、平成18年3月18日に安中市と碓氷郡松井田町が合併して新しい「安中市」が誕生し、平成28年3月に合併10周年を迎えます。周囲を高崎市、富岡市、下仁田町の県内の2市1町並びに長野県の軽井沢町に接する群馬県西部に位置する中核都市です。市の西部に県境をなす碓氷峠、北部に榛名山、南西部に妙義山を望み、ほぼ中央を清流の碓氷川が東西に流れる豊かな自然に包まれたまちです。

古くは東山道で結ばれ、近世には中山道の宿場町として栄えてきました。JR北陸(長野)新幹線の「安中榛名駅」、上信越自動車道の「松井田妙義IC」と「碓氷軽井沢IC」の広域高速交通網を有し、国道18号が市を東西に横断するなど、

現在も首都圏と長野県を結ぶ交通の要衝となっています。東京都心まで約120kmの距離にあり、「安中榛名駅」は東京駅から約1時間という立地のため、駅前の住宅団地の開発が進み、首都圏のベッドタウンとして新たな一面をのぞかせています。

### 歴史と文化が薫るまち

「教育と文化のまち」として長い歴史と伝統のある本市は、古くから街道沿いのまちとして栄えてきました。江戸時代には中山道が重要な交通路であったため、関東入国の関門として、幕府の命により「入鉄砲に出女」を厳しく監視する関所が碓氷峠に近い横川に設置されていたことは有名で、現在は関所跡に「東門」が復元されています。ほかにも江戸時代に諸大名や

公家の休息所として使用されていた「五料の茶屋本陣」があり、現在も季節ごとの茶会やイベントなどで利用されています。昨年のNHK大河ドラマ「八重の桜」に登場した同志社大学の前身である同志社英学校を開校した新島襄がアメリカからの帰国時に両親と再会した「新島襄旧宅」があり、新島襄ゆかりの「日本キリスト教団安中教会」は、明治11年に日本人の手によって創立された日本初のプロテスタント教会で、平成16年11月に「国登録有形文化財」に登録されました。

また、当地域は古くから養蚕が盛んに行われてきましたが、本年6月にユネスコの世界遺産に登録された隣接する富岡市にある日本初の官営製糸場「富岡製糸場」の操業にも大きな役割を果たしました。現在でも碓氷製糸農業協同組合が

操業を続けており、国内産の繭のみで作られる生糸は高品質を誇っています。

### 日本最古といわれる 安政遠足侍マラソン

毎年、5月の第2日曜日に安政遠足保存会と「安政遠足侍マラソン」を開催しております。このマラソンは、安政2年(1855年)5月から6月に安中藩主板倉勝明が藩士の心身の鍛練のために、安中城から碓氷峠熊野神社までの中山道を走らせ、熊野神社神官曾根出羽にその着順を記録させたもので、「日本最古のマラソン」とされています。これを昭和50年に復活させ、本年第40回となる記念大会を開催いたしました。日本最大規模の仮装マラソンとしても有名で、日本全国から毎年多くの方に参加をいただいております。本年も1600人を超える方が思い思いの仮装を施して新緑の碓氷路を元氣一杯に駆け抜けました。本市の一大イベ



毎年5月に開催される「安政遠足待マラソン」

ントともいえるものであり、今後  
も50回、100回と継続し、地域  
活性化を図ってまいりたいと考え  
ております。

## 豊かな観光資源を生かして

市内には温泉マーク発祥の地と  
いわれる磯部温泉や小説「人間の証  
明」に登場する霧積温泉などの優れ  
た温泉地があるほか、日本三大奇  
勝の一つである妙義山、関東でも  
有数の規模を誇る秋間梅林などの  
自然を生かした観光スポット、ま  
た家族で楽しめる碓氷峠鉄道文化  
むらや旧丸山変電所、めがね橋な  
ど地域の歴史を感じさせる観光・  
文化施設などの観光資源が数多く

あります。

本年4月には、明治期に建築さ  
れた重要文化財の近代化遺産で結  
ばれた隣接する富岡市および長野  
県軽井沢町と観光連携協議会を設  
立いたしました。本市を含めたこ  
の2市1町には、首都圏を中心  
多くの観光客が訪れておりますが、  
富岡製糸場の世界遺産正式登録と  
平成27年に予定される北陸新幹線  
の金沢延伸に伴い、北陸圏をはじ  
め西日本からも多くの観光客の誘  
致が期待できますので、協議会と  
の広域連携強化を図るとともに、  
観光PRを積極的に進め、本市の  
観光資源の魅力を外内に発信して  
まいります。

## おわりに

平成18年の合併により新市のま  
ちづくりの指針となる「安中市総合  
計画」を平成20年3月に策定し、10  
年間のまちづくりの目標とその実  
現に向けた施策を定め、取り組み  
を進めてまいりました。そして、  
この計画に定めた「前期基本計画」  
が平成24年度をもって期間満了と  
なったことから、「前期基本計画」  
を見直すとともに、この5年間の  
本市を取り巻く社会経済情勢や市

民ニーズの変化などを踏まえ、今  
後5年間の市の取り組みの方向性  
を定めた平成29年度を目標年次と  
する「後期基本計画」を平成25年3  
月に新たに策定しました。今後は  
この計画を基にさまざまな施策を  
展開し、総合計画に掲げる本市の  
将来像「豊かな自然と歴史に包まれ  
て、ひとが輝くやすらぎのまち」の  
実現に向け、着実に歩みを進めて  
まいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 276.34km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万1214人
- ◆ 世帯数 2万4491世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と歴史に包  
まれてひとが輝くやすらぎのまち  
〔まちの特徴〕古くからの歴史と文化  
を持ち、妙義山の東北に位置する自  
然環境に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成18年3月18日、安  
中市、松井田町が新設合併



安中市長  
茂木英子



〔特産品〕磯部せんべい、釜めし、梅  
干し、力もち、醤油、自性寺焼、絹製品、  
味噌まんじゅう

〔観光〕碓氷峠鉄道施設（文化むら、  
めがね橋、アプトの道、旧丸山変電  
所）、小根山森林公園・野鳥の森、碓  
氷峠くつろぎの郷

〔イベント〕秋間梅林祭、安政遠足待  
マラソン、磯部温泉まつり、磯部築  
ろうばいまつり、咲前神社の太々神  
楽、ポピーまつり



体験型鉄道テーマパーク「碓氷峠鉄道文化むら」

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、  
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 魅力を見つけ出し、磨き上げ 大きくする「本物」であふれるまちへ

### 桑名市の魅力

平成16年12月に1市2町が合併してできた桑名市は、木曾三川の河口に位置し、その豊かな自然環境の下、古くから東海道の宿場町として栄え、現在でも主要幹線が集中する交通の要衝となっています。名古屋から25km圏内という立



レジャー施設「なばなの里」で開催されたブランド推進委員会の様子

地条件から、社会増により、現在でも人口が増加している地域です。東海道伊勢の国一の鳥居がある「七里の渡し」や鹿鳴館の設計者であるジョサイア・コンドル設計の

「六華苑」、上げ馬神事が有名な「多度大社」、また、全国有数のレジャー施設の「ナガシマリゾート」、国指定重要無形民俗文化財の「桑名石取祭」、さらには「焼きはまぐり」に代表される特色ある食文化など、多彩で充実した地域資源を生かし、県内でも有数の観光都市となっています。

**ブランド元年**  
『本物力こそ、桑名力。』

本市では、本年を「ブランド元年」と位置付け、4月には組織改編を行い、新たに「ブランド推進課」を創設して、「桑名をまちごとブランドにする体制づくりを行いました。地域医療の確立、子育て環境の充実、高齢化社会への対応など、これまで本市が進めてきた、「住みよさ」の向上を図るという方向性は変えることなく、快適な住環境の

維持・整備をこれからも進めていくとともに、今後はさらに、桑名のブランド化、桑名の価値の向上に取り組みたいと考えています。

具体的な取り組みでは、桑名のブランドについて戦略的に事業展開するための調査や審議を行うブランド推進委員会を設置し、会議を開催しています。会議での議論の中から、本市の魅力や価値を桑名ブランドとして積極的に展開するための方策を検討していきます。

また、5月には首都圏のメディア関係者を対象に、桑名ブランドをPRするための「桑名市東京PR事務局」を開設しました。

市内では、市民の皆さまと桑名の良さや魅力を再発見する機会や学びの場を設け、素晴らしい資源を市民の皆さまと一緒に磨き上げ、市の内外に情報を発信し、本市の

価値をさらに高めていきたいと思っています。

そんな中、7月に、桑名ブランドキックオフイベントを開催し、その中でブランドキャッチフレーズを『本物力こそ、桑名力。』と決定しました。

桑名にある「本物」を「見つけ出し」「磨き上げ」「大きくする」力である「本物力」が、これからの桑名のまちづくりの力、いわゆる「桑名力」となるよう、市民の皆さまと共に桑名の価値向上に取り組みます。

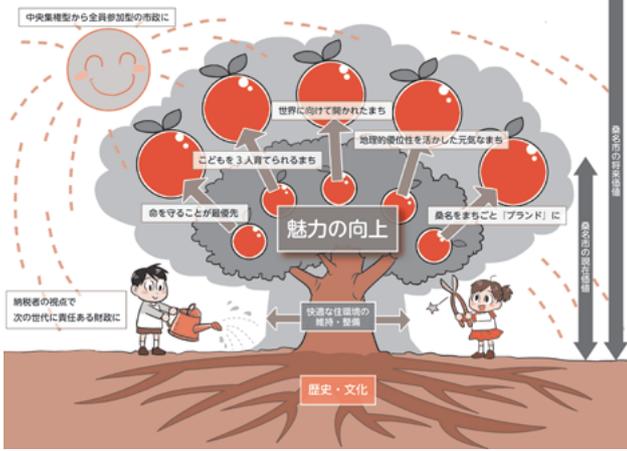
**新しい総合計画の策定**

平成27年4月から新しい総合計画がスタートします。本年9月議会での議決を経て、現在完成に向けて準備中です。

新しい総合計画は、私が平成24年12月に市長に就任した際に市民の皆さまにお示しした「7つのビジョン」との整合を図り、策定を進めてきたものです。

桑名ブランドのキャッチフレー

本物力こそ、桑名力。



「中学3年生でもわかる」総合計画へ（基本構想のイラスト）

ズである『本物力こそ、桑名力。』を基本理念とし、「次世代へと続く快適な暮らしの中でゆるぎない魅力が本物として成長し続けるまち桑名」を目指します。

「全員参加型の市政」を実現するため、策定に当たっては、総合計画審議会はもとより、「地域会議」や「学生セミナー」「フィールドワーク」「どこでも市長室」「市長カフェ」など、まちづくりに関するさまざまな市民の生の声をうかがってききました。

さらに、「中学3年生でもわかる」を合言葉に、三重大学と連携し、イラストの活用やかるた調のアレンジ

次世代への責任  
行政改革と公民連携

など随所に工夫を凝らし、分かりやすい計画づくりに努めました。

新しい総合計画では、これまで別に策定してきた行政改革大綱を、計画の中に位置付けることにしました。

これは、本市がこれからのまちづくりにおいて、行政改革に積極的に取り組む姿勢を明確にするためです。

少子高齢化や社会保障費用の増加、また、合併後の地方交付税の特例措置がなくなることなど、今後予想される厳しい財政状況に対応していくには、行政だけでなく市政にかかわる全員が厳しい現状を認識するとともに、納税者の視点で税金の使い方を見直し、効率的・効果的な行政運営を進めていくことが重要です。

また、財政の健全化を図りつつ、市民サービスを維持・向上させるためには、民間と役割分担しながら協力し、民間の経営資源やノウハウ、アイデアを活用する公民連携（PPP）に取り組んでいく必要があります。

プロフィール

平成24年には、地方独立行政法人桑名市民病院と医療法人を統合し、「地方独立行政法人桑名市総合医療センター」として、新たなスタートを切りました。地方独立行政法人と医療法人の統合は全国でも例がない、新たな取り組みです。

また、合併前に計画されていた温泉を活用した健康増進施設の整備について、民間の提案を大胆に

取り入れ、これ以上税金を投入せず、独立採算型の事業形態とした民営方式でのPFIによる事業者の公募を進めていきます。

今後も、市にかかわるすべての関係者と行政が力を合わせ、柔軟な発想を持って時代の変化に対応し、次世代にも責任を持って引き継いでいけるよう、新しい総合計画とともにまちづくりを進めていきます。



桑名市長  
伊藤徳宇

- ◆ 面積 136.61km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 14万2724人
- ◆ 世帯数 5万6255世帯
- ◆ (将来都市像) 次世代へと続く快適な暮らしの中で、ゆるぎない魅力が本物として成長し続けるまち桑名
- ◆ (まちの特徴) 名古屋25km圏内という地理的優位性や木曾三川、養老山系など豊かな自然にも恵まれる「住み良いまち」
- ◆ (市町村合併) 平成16年12月6日、桑名市、多度町、長島町が合併して桑名市誕生



- ◆ (特産品) はまぐり、海苔、しじみ、鏝物、八壺豆、なばな、トマト、安永餅
- ◆ (観光) ナガシマスパーランド、七里の渡し跡、九華公園、六華苑、諸戸氏庭園、多度大社
- ◆ (イベント) なばなの里ウィンターイルミネーション、石取祭、多度祭、桑名水郷花火大会、桑名水郷舟めぐり、流鏝馬祭、伊勢大神楽

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 大自然と人々が融合し

## 「新たな力」が躍動するまち えびの

## —南九州の交流拠点都市を目指して—

### はじめに

えびの市は昭和41年に飯野町、加久藤町、真幸町の3町合併によりえびの町として誕生し、昭和45年に市制を施行し現在に至っています。

南九州のほぼ中央、宮崎県の最西端に位置しており、北部の矢岳高原、南部のえびの高原や韓国岳など、多くの山々や高原に囲まれています。中央部の盆地は約50万年前の大噴火でできた加久藤カルデラにより形成されており、のどかな田園地帯の中を川内川が悠然と流れ、その恵みは、島津の殿様への献上米として古くから歴史があり、日本の米どころ百選にも選ばれた由緒ある「えびの産ひのひかり」として集大成を見せています。豊かな自然を生かした農業が本

市の基幹産業ですが、人口減少や高齢化による後継者不足などの問題に直面しています。

そのような中、平成25年は、田代地区自治会が、国内最高峰の農林水産業コンクールである「第52回農林水産祭むらづくり部門」において、最高賞の天皇杯を受賞しました。

これは、自治会が世代を超えて同じ価値観を共有し、次世代へと伝えていく姿が全国のむらづくり活動のモデルになり得ると高く評価されたものです。本市にとりまして、平成24年の第10回全国和牛能力共進会の「宮崎牛」日本一に続いての快挙であり、地域住民が自立し、責任と誇りを持って自ら未来を切り拓いていく姿が、本市全体の地域づくりにつながっていくものと考えております。

### えびの市のまちづくり

本市は、平成23年度に第5次えびの市総合計画を策定し、『大自然と人々が融合し「新たな力」が躍動するまち えびの』を将来像としております。これは、市民と行政が共に手を携えながら協働によるまちづくりを進めていくことで、一体感と絆きずなが深まり、活性化の原動力となるさまざまな「新たな力」を生み出し、これまでにない個性や魅力を醸成することを目指しています。そして、そのことを広く発信することによって、交流人口を拡大し、さらに新たな魅力が開花し、地域が活性化することで、市民の誇りにつながっていくことを目指しています。

### ●交流人口の増加

本市は、宮崎、鹿児島、熊本の

県境に位置し、九州縦貫自動車道により、南九州の各拠点都市間や、福岡・北九州などの大都市圏を結ぶ交通の結節点として、人的・物的な交流拠点都市となる可能性を有しています。

さらに、日本ジオパークに認定されている霧島ジオパーク内にあるえびの高原をはじめ、県内唯一の温泉郷である京町温泉や「田の神さあ」に代表される南九州特有の「田の神文化」、平成25年全線開業



昨年全線開業100周年を迎えたJR吉都線

100年を迎えたJR吉都線など、魅力ある資源を数多く有し、さまざまな新しいイベントが生まれています。

この魅力ある資源を活用し、市内外の住民との連携および交流を促進することにより活力ある地域づくりを進めるために、南九州の玄関口であるえびのインターチェンジ近くに、平成25年4月20日に「道の駅えびの」をオープンさせましたが、年間54万人の来場者と売上4億円を突破するなど、まさに南九州のキーステーションに成長が続いています。

定住対策としての取り組みでは、子育てしやすい環境づくりのために、中学校までの子どもに医療費の一部を助成する「子ども医療費助成」、教育環境では、未来への投資として人材育成のために、本年4月から市内の全小中学校で「30人学級」を導入し、きめ細やかな指導による学力向上、生徒指導の充実を図るとともに、市内の全小中学校および市内唯一の県立飯野高等学校における小中高一貫教育などを推進。住宅取得については、最高で100万円の支援金を交付する「えびの市住宅取得定住促進事業」

を実施しています。

さらに、平成25年に形成した「しもろ定住自立圏」での取り組みとして、農家民泊を柱に修学旅行受入事業を展開し、関西地方などから約1000人を受け入れるなど、「新たな力」が生まれ、躍動が始まっています。

### ●市民との協働

本市では、市民の市政への参画を促すとともに、市民と行政がそれぞれ果たすべき役割を明確にするため、「えびの市自治基本条例」を施行し、市民との協働のまちづくりを進めています。

人口減少、少子高齢化、社会ニーズの多様化など、社会情勢が大き



田代自治会の若者が企画して整備したひまわり迷路での結婚式

く変化する中で、さまざまな分野において1つの自治会や1つの団体では対応が困難な場合があることから、本市では、主体的に自らの地域の活性化や地域の課題解決を図るための新たな自治組織「地域運営協議会」を設立しています。この地域運営協議会を核として、市民と行政との協働によるまちづくりが一層進展することを目指しています。

## プロフィール

- ◆ 面積 283 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万92人
- ◆ 世帯数 8935世帯

〔将来都市像〕「大自然と人々が融合し「新たな力」が躍動するまちえびの」をスローガンに「南九州の交流拠点都市」を目指す

〔まちの特徴〕四季折々の表情を見せてくれるえびの高原のほか、川内川をはじめとする良質で豊富な水資源、県内随一の温泉郷である京町温泉な



えびの市長  
村岡隆明



ど風光明媚な田園観光都市

〔特産品〕えびの産ひのひかり、焼酎明月、きんかん（たまたま）、えびの産宮崎牛、きんかんロールケーキ

〔観光〕えびの高原、京町温泉、白鳥温泉、矢岳高原、道の駅えびの、グリーンパークえびの

〔イベント〕京町二日市、えびの京町温泉マラソン大会、えびの京町温泉夏祭り、牛越祭、大太鼓踊り、えびの観光祭（春季・秋季）

## 結び

市民が、豊かな自然環境・田園景観に抱かれた中で育ち、学び、働き、生きることにより喜びを感じ、お互いを敬い、家族・地域の絆を大切にし、心の豊かさや幸せを感じられるまちを目指して、住民と一致団結し、絆を大切にしながら、明るい元氣なえびの市をつくっていきたいと考えます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。